

平成 28 年度第 1 回図書館協議会

平成 28 年 7 月 21 日(木)
午前 10 時～11 時

議事録

会場 門真市立図書館会議室

出席委員 村上委員、中島委員、国吉委員、明淨委員
木下委員、乾委員、下岡委員

事務局 柴田生涯学習部長、西中館長、竹本館長代理、岡本分館長、
土江

傍聴者 なし

案件 (1) 委員長、委員長職務代理の選出
(2) 平成 27 年度 事業報告
(3) 平成 28 年度 事業計画及び予算について
(4) その他

図書館協議会委員の紹介

教育委員会事務局の紹介

館長 皆さんおはようございます。図書館協議会の開催にあたりまして、ひとこと挨拶を申し上げます。委員各位におかれましては、ご多忙のところお集まりいただきましてありがとうございます。

昨年度の協議会では、建設予定の複合施設内の新図書館の管理運営、図書館サービス、施設の機能などに関しまして、委員各位からご意見・提言をいただきありがとうございました。

さて、前回の協議会でもご報告申し上げましたが、生涯学習複合施設の建設につきましては、諸事情により数年遅れる見込みとなっております。「生涯学習複合施設基本計画」につきましては、策定から3年を経過していることから、新しい機能が必要となるかどうか、現在、実施設計に向けて関係課と検討会議を実施し、先月は福知山市立図書館へ視察、今後も他市への視察を予定するなど調査・研究をすすめているところであります。

また、生涯学習複合施設内の図書館として、目指すべき姿・理念を明らかにするため、管理運営・サービス・体制などをまとめた図書館サービス計画を、平成29年度から取り組み、30年度に策定する予定であります。

図書館協議会におきましても、委員の皆さまからいただきましたご意見・ご提言をもとに素案の作成にあたりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上、挨拶とさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。
それでは案件（1）に入ります。

- （1）委員長、委員長職務代理の選出
（委員長には国吉委員、委員長職務代理には仲谷委員に決定）

委員長 それでは失礼します。いま選任されました門真市立図書館協議会の委員長の、大和田小学校校長、国吉といいます。よろしくお願いいたします。

この連休に梅雨明け宣言がされまして、日々暑い日が続いています。私は小学校なので、子どもたちの様子をお話ししますと、夏休みに入ってもすぐに休みではなくて、子どもたちはプールの開放等があります。特に苦手な子もいまして、そういう子たちには3日ほど日を取りまして、そういった時間を設けて少しでも水泳が好きになってもらうように取り組みをしております。

いま水泳の話をしました。本校の取り組みの中でも、図書に親しもうということ取り組みをやっているところです。図書館には、非常にありがたく、いろいろな本を届けていただきまして、明日も借りた本を返す予定になっております。これも図書館と学校をつなぐ取り組みが盛んに行われるようになった成果だと考えております。本離れということが叫ばれる中で、子どもたちは本に接することによって豊かな感性を持つように思います。こういった取り組みを

今後とも続けていただきたいと思います。

さて、本日はこのあと、平成 27 年度の事業報告並びに 28 年度の事業計画、予算等の審議がございます。最後までよろしくお願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは委員長、順次進めていただきますようよろしくお願いいたします。

委員長 はい、了解しました。それでは案件（２）です。平成 27 年度事業報告について事務局から説明をお願いいたします。

事務局 平成 27 年度の事業について説明させていただきます。
資料 1 の、「平成 27 年度門真市立図書館事業」をご覧ください。A 4 の横の形になっております。
まず、1 ページでございます。図書館活動といたしまして、蔵書点数、貸出点数、登録者数、参考業務件数、予約件数を挙げております。貸出につきましては、26 年度は、貸出冊数上限を 10 冊から 15 冊に変更したことにより微増しておりましたが、昨年度は減少となりました。登録者数は、9 年以上利用のない睡眠利用者の削除を行ったため減少しております。予約につきましては、前年度に比べ減少しておりますが、27 年度は 5 年ごとの図書館システム移行のため、2 月の休館日が例年より多かったことも影響していることが考えられます。
次に、2 ページをご覧ください。図書館協議会です。「新図書館について」ご審議いただくため 5 回の開催となりました。記載されているような内容となっております。図書館フェアについては、5 月 23 日、24 日に開催し、毎年、受付時間より前に長い列を作って待っていただくほど、大変多くの市民の方にお越しいただいております。
続きまして、子どもの読書活動推進事業ですが、一日図書館員は、夏休みの行事として定着しており定員より多くの申し込みがあるのですが、抽選によって 6 人となっております。
3 ページをご覧ください。職業体験学習につきましては、市内 6 中学校からの参加がありました。前年度に引き続き、門真西高等学校からも参加していただきました。
また、初めての取り組みとして、門真はすはな中学校の学校司書からの提案により、図書部による選書ツアーを実施いたしました。
次の項目になります、読み聞かせ・手作り等行事を例年どおり実施いたしました。全体の参加人数としましては、26 年度 316 人を上回る 424 人となりました。
4 ページの「おはなしの時間」、「絵本の広場」は、本館の参加者で定着している方が何組かおられるため、前年度より増加しております。乳児と保護者のための行事といたしまして、ブックスタートのフォローアップ事業として実施しております「赤ちゃんふれあい絵本タイム」は参加者には好評であります、参加人数は減少しております。減少した要因としましては、前回、2 部構成になったことで影響されたところがあると申しましたが、別の要因の一つとし

してはブックスタートの対象者が年々減少しており、25年度は914人、26年度は875人、27年度は837人となっており、25年度に比べ77人減っております。ブックスタートでのPRから図書館を訪れる方が多くおられることから、参加者の減少につながったことも考えられます。ただし、「おはなしの時間」、「絵本の広場」の定着した参加者の中には、「赤ちゃんふれあい絵本タイム」の参加者のお子さんが成長したことにより、おはなし会の参加へと変更したことも考えられ、こちらの増加につながったと思われます。

「出張おはなし会」は、保育園等にボランティアの皆さまが訪問し、おはなし会を行っているものです。園の皆さまにも喜んでいただいております、例年、継続して訪問いただいております。

次に、夏休みである8月に子ども向きのビデオ上映会を実施いたしました。

5ページになりますが、展示会につきましては、子どもの読書週間に合わせて、本館と分館で、「日本のごはん季節のごはん」というテーマで実施いたしました。一般書の展示会としましては読書週間に合わせまして、「大阪城・人と城」のテーマのもと実施いたしました。

「おはなし・ボランティア養成講座」では、子どもを読書活動へ誘うさわる絵本の紹介や幼児と保護者がおはなしなどでコミュニケーションを図る方法、ボランティアのスキルアップが図れる研修を実施いたしました。

また、4月25日には、児童文学作家の高田桂子氏による講演会「子どもの本・あんな本・こんな本〜かくしシリーズ三部作を完結して」を開催。6月24日には、立命館大学教授の常世田良（とこよだ りょう）氏をお招きいたしました。内容としましては、「市民のために連携で取り組む図書館運営をめざして」と題し、勤務年数10年以内の市職員を対象として、図書館の各種サービスの紹介と、図書館が市全体をつくる、図書館に多くの市民が集まるという意味で重要な施設であるとのこと講演をいただき、参加者の方に、図書館が情報発信の場であることを認識し興味を持っていただける機会となりました。

出前講演会では、門真市内公立の幼稚園2園で実施いたしました。

図書館への興味を持ってもらうために大人のためのビデオ上映会を8月に開催し、参加された方には好評でした。

生涯学習支援事業といたしまして、朗読ボランティア養成講座を行いました。こちらは毎年実施いたしておりますが、朗読ボランティアの養成と同時に朗読技術の向上を図ることができました。

対面朗読につきましては、朗読ボランティアの皆さまご協力のもと実施いたしました。

「朗読で楽しむ文学の世界」と題する大人のための朗読会は、初夏と秋の行事として定着しております。

以上が平成27年度の事業報告でございます。よろしくお願いいたします。

委員長 それでは、質疑応答の時間を取りたいと思います。いかがでしょうか。
もう少し時間を取りましょうか。いいですか。
ないようですので、次の案件に移らせてもらってよろしいでしょうか。
はい、どうぞ。

- 委員 すみません。教えてください。1 ページもので登録者のところで、睡眠利用者の削除をなされたということで、26 年度から 27 年度の減少というご説明をいただきました。これは定期的にといいますか、アクティブではない利用者の削除というのは何年かおきになさるということなんですか。教えてください。
- 事務局 例年行っていく方針でしたが、平成 27 年度中には行ったんですが、平成 26 年度に年度内には行っていなかったことも関係しまして、27 年度にがくんと減ってしまうような形になってしまいました。
- 委員 しょっちゅうしているということではなく、何年かおきということですか。
- 事務局 そうです。年度内に 1 回行いたいとは思っております。
- 委員 ありがとうございます。
- 委員長 ほかにございませんか。どうぞ。
- 委員 質問ではないんですが、感想ということで。市職員の方対象の講演会をなさったということで、これから新しい図書館をつくっていかれるうえで、そういった市全体でそれを盛り上げていこうということへの理解はすごく大事だと思います。そういう意味では、こういう取り組みは非常に良かったのではないかと思います。
- 委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。
それでは、次の案件に行かせてもらいます。
案件（3）平成 28 年度事業計画及び予算について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 平成 28 年度の事業について説明いたします。1 枚ものになりますが、資料 2 の「平成 28 年度門真市立図書館事業計画及び予算」をご覧くださいませでしょうか。今年度予算、事業内訳と前年度予算と増減を記載しております。図書館活動事業といたしまして、主なものとして図書費があります。子どもの読書活動推進事業といたしまして、従来からの「おはなし会」などがあります。
次の、展示会、講座等開催事業といたしましては、幼稚園の出前講座、ボランティア養成講座、親子で楽しむ読み聞かせ講座を予定しております。
生涯学習支援事業といたしましては、「朗読ボランティア養成講座」、「朗読で楽しむ文学の世界」を実施いたします。「朗読で楽しむ文学の世界」については、2 回実施する予定で、第 1 回は 6 月に実施いたしました。
次の 2 つの事業が今年度の新規事業であります。「第 2 次子ども読書活動推進計画」策定に伴い、読書活動をより一層推進するための事業であります。

「学校等読書活動推進支援事業」は、委託業者により市内の学校等に図書館資料を配送・回収する事業であり、予算額は26万円となっております。

次の、「子ども読書活動推進啓発事業」は、大人も子どもも参加でき、楽しみながら読書のすばらしさに触れることのできる、児童文学作家の講演会を開催する事業であり、講師謝礼金と保育士の報償費11万円となっております。

そのほか、子どもの読書活動を推進するための取り組みにつきましては、のちほど案件4のところで説明させていただきます。

以上、簡単ではございますが、28年度の事業計画、予算についての報告を終わらせていただきます。

続きまして、平成28年度の行事予定を土江から報告させていただきます。

それでは、平成28年度の行事を説明させていただきます。お手元の資料、「平成28年度図書館行事（案）」をご覧ください。

まず、今年度4月から7月までに実施いたしました行事の報告をさせていただきます。4月には子ども読書週間にちなみまして、本館、分館ともに、「旅・冒険の絵本」のテーマのもと、子どもの本展示会を行いました。また、分館では毎年恒例の絵本を中心としたおはなしの行事「絵本の好きな子よっ」といので24日に行い、25名参加いただきました。

5月の28、29日には、市民プラザで図書館フェアを開催いたしました。こちらは、好天に恵まれ、例年どおり大変好評の中終えることができました。28日の子ども向け行事であるパネルシアターでは、34名の参加がありました。6月には、11日に本館で一般向け行事として「朗読で楽しむ文学の世界」を開催し、26名の参加がありました。

7月に入り、1日から門真はすはな中学校の学校司書からの提案により、図書部が作成した「おすすめの本」の展示を行っています。門真はすはな中は学校司書を中心に創意工夫をこらして読書活動を活発に行っており、今年度、「子どもの読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣表彰を受賞されています。

7月29日には、市内学校司書6名で協力し、図書館において簡易の面展台を利用した「えほんのひろば」を図書館との共催として開催いたします。また、26日には「図書館と学校との連携のための研修」を行います。こちらは、のちほど、学校連携の説明の中で詳しくご報告させていただきます。

16日には、分館で「夏のおはなし会 絵本の広場スペシャル」を行いました。7月23日からは、本館・分館において、「本のおたのしみ袋」として、職員がおすすめの本をテーマごとに袋詰めしたものを借りてもらえるよう用意いたします。こちらは、子どもたちに普段自分たちでは手にしないような本との出会いをつくり、読書に興味を持ってもらえるきっかけとなればと考えております。

今後は、28日に、本館では夏のビデオ上映会を子ども向けと大人向けに行い、30日は、「親子で楽しむ紙芝居とおはなしの会」を開催いたします。同じく、30日に、分館では「夏の手づくり遊びの会 木の工作」を開催します。

8月に入りまして、3日には例年好評の「一日図書館員」という小学生を対象に図書館の仕事を経験してもらう行事を行います。

本館では7日、分館では21日に「夏の手づくり遊びの会 スライムをつくろう」、20日に「英語で楽しむおはなしの会」を予定しております。

10月からは大阪府教育庁との共催で「読みメン講座」を、12月までに5回開催で予定しております。

冬休み、春休みの学校休業時には、絵本の読み聞かせを中心とした行事を開催します。こちらはボランティア団体との協働による行事となります。

このほか、定例の行事としましては、下枠内に記載しておりますように、本館・分館ともに、水曜日・土曜日の読み聞かせ、乳幼児向けには、本館では月に2回、分館では月に1回、「赤ちゃんふれあい絵本タイム」と、4カ月健診時に、ブックスタート会場での読み聞かせを行っております。

以上となります。

委員長 それでは質疑応答の時間を取りたいと思います。

委員 よろしいですか。

委員長 どうぞ。

委員 先ほど、新図書館に向けていろいろ調査をなさっていたりとか見学をされたりということを書いてらっしゃいましたが、そういうための予算はどこにあるのでしょうか。

事務局 視察につきましては、出張費、旅費という形で予算は取っております。

委員 それは、ここの中に出てくるのとはまた別のところの予算ですか。

事務局 そうではなく、28年度予算の旅費という形で取っております。図書館活動事業の中の事業費等の中に含まれます。

委員 図書館活動事業の、施設の管理運営の。

事務局 施設の管理運営のところです。

委員 報酬ですか。

事務局 報酬ではないです。需用費等のところに含まれております。

委員 分かりました。だいたいどれぐらい行かれるというのはございますか。

事務局 あと、今年度は2市を予定しております。

委員 どこですか。

事務局 八尾市立龍華図書館と、箕面市立中央図書館です。

委員 はい。

委員長 ほかにどうでしょうか。はい、どうぞ。

委員 質問とかそういうこととは外れるかもしれませんが。
ブックスタートに5年間携わっていてボランティアをさせていただいていますが、先ほど、27年度の報告にもあったように、ブックスタートで赤ちゃんが絵本に親しんで、またおはなしの時間に行っているかもしれないという話をさせていただきましたが、ブックスタートですが、かなり高齢に、毎回そういうお話しがあると思いますが、皆さん現場を知らないと思いますので、現場にいますので少しお話しさせていただきたいのですが、絵本ことの葉会のボランティアの方がずっと無償で、私も無償で当然やっていますが、やはり時間が長いです。3時間ぐらい、遅くなると4時半ぐらいまでになって、だらだらと最後まで。健診が終わって個人の面談も終わって最後になりますので、ブックスタートでおはなしをし、絵本をお渡しするのが4時半を過ぎることもあります。皆さん1時ぐらいから来ていらっしゃる方と、私も午前中は仕事をしているので2時に入らせていただいて、もう2時間してくるとちょっとくたくたしてくるんです。やはり初めてのお母さんですので、お子さんをお持ちのお母さんは初めてのことで、皆さんお声かけもとても慎重にされていますし。とても重要なお仕事だと思いますが、5年経っているということは、そのぶん皆さん、年齢がいつているということで、新しい方が来られたということがいまのところ一度もないので、今後、皆さんは何も文句はおっしゃっていませんよ。楽しくやっています。皆さん、5年一緒の方なので私もすごく楽しくさせていただいていますが、やはりもう3時、4時になると「しんどいね」という話が出てくるので、ずっとお話しをして、図書館のアピールをして、ずっとお話しをしていますので疲れてきます、はっきり言って。緊張しながら、いろいろなことを、変な事を言うてはいけない、お母さんの気に障ってはいけないということもありながら、お子さんですので、いろいろなことをご相談受けることもありますし、話している間に、ご相談を少しさせていただいたりとかというのもあったり、図書館の紹介をしたり、「本、どんな方がいいですか」と聞かれることもあるので、お話しが長くなることもあるので、5年間している中で図書館としてはブックスタートの取り組みをこのままボランティアでしていくのか、何か違う方向へ持っていくのか、何か案を考えていらっしゃるかなというのをお聞きしたいと思います。このまま、本当に、誰かがお休みをされることがあるかもしれないし、何かがあると、ちょっと人数が足りないんですね、そういうときに応援が、たぶん皆さん来ていただいているんですが、一応、皆さんに現状をお話ししておきたいというのが。ボランティアにしてはけっこう長くて、けっこう疲れる仕事なので。楽しいですよ、文句もないですよ。これだけは言っておきます。皆さんすごく楽しくされていますが、やはり年齢

がどんどんどんどんいくと、疲れるなという。

委員 ボランティアの養成講座もこの間ずっとやってらっしゃったということを聞いておりますが、そこからなかなかつながらないのですね。

委員 それから来られるというのが、全く5年間、ないんです。ちょっと入ってこられても、いなくなったりとか、ちょっと風邪を引かれるときがあり少なくなったりとか、皆協力しながら仲良くされていていい雰囲気なんです。それは言っておきたいのですが、今後何かあったときに、どういうふうに対処されるのかな、この見通しというか。

事務局 今回、3月号で図書館の特集をしていただいたときに、ボランティアさんのお声とかを載せさせてもらって、ボランティアはどうですかというような感じで書かせてもらいました。すると反響がありまして、何人か新しい方がボランティアを始めてみたいんですということで来られていまして、おはなしの時間にも入ってもらったりしていますが、今後、ブックスタートにつきましては、やはり皆さんご高齢になってきたというのもありますので、続けていきたい事業ですので、体制に関しましては今後検討していきたいと思います。新しいボランティアさんにも入っていただいて。

委員 そうですね。ちょっとずつ慣れて。たぶんすぐにはなかなか難しいかなと思います。

事務局 難しいと思います。経験とかね。

委員 はい。すぐに入って、どういうふうにするのかというのがあると思うので。

事務局 今後検討させていただきます。

委員 ぜひお願いします。

事務局 はい。ありがとうございます。

委員長 他はどうでしょうか。

委員 10月に「読みメン講座」をされるということで、昨年、阪南市や高槻市とか、いくつか記憶しております。私、3月までドーンセンターにおりますので、もしよろしければということですが、この「読みメン講座」のときに、阪南市の図書館からのご依頼だったのですが、せっかく父親あるいは主夫の方が、男性のみの講座で参加されるということでしたので、当館にもお持ちだと思いましたが、イクメン関係の本とか、そういうジェンダーの本に関しては圧倒的にドーンセンターにたくさんございますので、セット貸出という形でこの阪南市が

「読みメン講座」をなさっている間、ドーンセンターからの資料を置かせていただいて、間接的に借りていただけるようなこともしまして、好評だったのちほど伺いましたので、もしよろしければご活用いただければと思いました。以上です。

委員長 ありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

委員 毎年こうして計画と予算と、いろいろ行事などもしていただいて、年度ごとにやっていっているということは、とてもいいと思いますし、この間ずいぶん、前年度の評価に関しては原因なども付け加えていただいて分かりやすくなってきたと思いますが、そろそろ、新図書館の計画のこともありますし、年度ごとに加えて、少し、中長期的な計画の中でこのルーティーンの仕事はどう位置づけられるのかということを出していただくと、長い目で、先ほどのボランティアの話のことも単年度で計画できるものではないですし、どれぐらいのスパンでどういうことを考えていくのかということのを計画して評価していかれると、より良くなるのではないかと思いますので、ひとこと加えさせていただきます。

委員長 ありがとうございます。ほか、ございませんか。
ないようですので、次の案件に移らせていただきます。次は案件（４）です。
その他について事務局から説明をお願いします。

事務局 子ども読書活動推進事業についてご説明させていただきますので、資料４をご覧ください。
「第２次子ども読書活動推進計画」の推進項目に沿って、家庭、地域、図書館、学校等における読書活動を推進するための取り組み内容について記載しております。説明は前後いたしますが、よろしくお願いいたします。
先ほど、28 年度予算でお伝えしましたように、「学級文庫配本事業」と「児童文学作家講演会」を新たに実施いたします。学級文庫配本につきましては、すでに実施しております。「学級文庫配本事業」は、お申し込みのあった学校へ学期ごとに学級文庫の配本と回収を年６回、配送業者に委託して行う事業です。１学期のお申し込みは、市内小学校 14 校中、７校の依頼があり、28 クラスへの配本と回収を行いました。
「児童文学作家講演会」につきましては、四條畷市在住の絵本作家谷口智則氏と 10 月 23 日、日曜日に開催する予定で話をすすめております。
そのほかの事業としましては、今年の３月から、図書館システムの更新に伴いまして、借りた本の記録をシールに打ち出すことができるようになり、子どもには読書手帳の配布を開始いたしました。現在、本館では 183 人、分館では 133 人の子どもたちが読書手帳を持っております。中には、友だちや兄弟に使い方を説明している姿も見られ、読書に親しむきっかけづくりとなっております。
また、今月 23 日からは「本のお楽しみ袋」を用意しております。

先ほど説明いたしました、6月に開催いたしました面展台製作教室と、10月から開催予定の「読みメン講座」は、大阪府教育庁との共催事業となります。面展台は、絵本6冊ほど表紙を向けて並べられるものを段ボールで製作いたしました。市内の学校司書や、図書館で活躍していただいているボランティアの方が参加され、図書館で利用できるようにと寄付してくださいました。こちらを利用して、今月29日には、学校司書が行事を企画されております。

「読みメン講座」に関しましては、教育庁で共催の募集があり、今まで講座への参加が少なかった男性の方に、子どもたちと一緒に絵本に親しんで読み聞かせをしてもらい、子どもたちの読書活動の機会を増やしたいと考え応募したところ、開催が決まりました。

今年度に入ってから、新たに保育園や小学校、他部署からも読み聞かせの依頼があり、市民の方からはボランティア活動の問い合わせもあることから、子どもの読書活動の機会は増えているように思われます。

今後も、家庭・地域・学校と連携しまして、子ども読書活動を推進してまいります。以上です。

少し付け加えさせていただきます。子ども読書活動推進計画事業の四つの項目があって、先ほどのボランティアの担い手づくりは最後の連携、協働と普及、広報活動の推進になりますが、ほかにも項目がいろいろありますが、とりあえずロードマップ的に1年目、2年目、3年、あと5年とかかかる分がありますが、とりあえず、今出来ているものだけを記載させていただいていますので、これで全てではありませんが、計画をつくってすぐに着手したという形で、この例で挙げさせていただいております。

続きまして資料4の中で、取り組み内容のうち、先ほどの説明で触れていない学校支援についてご説明いたします。

5月より、子どもたちにおすすめ本の紹介や行事の案内などを掲載した図書館だよりを2カ月に1回をめやすに作成し、各小学校に配布、掲示を依頼しております。

7月に入ってから、門真はすはな中学校の「おすすめ本」の展示をしており、22日には選書ツアー、29日には市内学校司書の「えほんのひろば」が企画されております。

来週26日に、「図書館と学校との連携のための研修」を学校教育課との共催で開催いたします。対象者は、市内学校の司書教諭及び学校司書、子ども読書活動に関わる関係団体とし、図書館で活躍していただいているボランティアの方も参加していただけることになっております。

内容としましては、第二中学校区での子ども読書活動が活発であることを、関係している方々から聞くことができましたので、主にそちらの事例を知ってもらうため、企画しております。

少し、詳しく申しますと、前年度2月に子ども会より予算がついたので、地域文庫をきれいにするために本を選ぶ選書の方法を教えてほしいとの依頼があり、図書館において選書方法の参考になる資料を紹介し説明する機会を持ちま

した。その後、見学させてもらい活動内容を聞くと、月に1回開館しており、冬は10数人だが、夏休みには30人ほど子どもたちが本を借りにくるとのこと。今年6月に開館した際には、子どもたちに図書館の名前を募集しまして、「常盤町みらい図書館」とし、書架や本の選書は地域の書店さんに協力してもらい、本のラベル付けや並べ方などは小学校高学年の子どもにお願いしたとのことでした。

この地域は、学校支援地域本部も読書活動を活発に行っており、大和田小学校へは学校訪問をし、読み聞かせを行ったり、第二中学校区内の読書の取り組みについて冊子を発行したりしております。

また、沖小学校は、昨年度、今年度と、門真市民プラザ分館へ図書館見学のため、日にちを分けて全学年来館されており、図書館の利用方法の説明や読み聞かせを行っております。

第二中学校においては、国語の授業の一環として、ビブリオバトルを参考にした読書活動を行っておりますので、こちらは、その取り組みについて、先生に発表をしてもらうことになっております。

地域の保護者の方からは、子どもが中学校になって部活があり図書館には行けなくなったが、学校の読書活動のおかげで本を読むようになった、というお声もお聞きしました。

今回、本協議会委員になっていただいている校長先生、園長先生におかれましては、皆さま、偶然にも第二中学校区となっており、今後も読書活動のご協力とともに取り組み等を教えていただけましたらうれしく思います。

今後の予定であります、門真はすはな中学校において、学校を訪問し、図書館の司書と学校司書がバトラーとなって中学生におすすめの本を紹介し、生徒たちにチャンプ本を決めてもらう「ビブリオバトル」の開催を考えております。まずは、ビブリオバトルを知っていただくため、8月に先生方に対してデモンストレーションを行い、今後、開催に向けて学校司書協力のもと、話をすすめてまいりたいと考えております。

学校支援については以上となります。

委員長 はい、ありがとうございます。それでは質疑応答の時間を取りたいと思います。

委員 門真はすはな中の活発なご提案ということで、ご報告いただきまして、それと、学校との連携ということでさまざまなご報告をいただきましたが、参考までに教えていただきたいです。はすはな中でも学校司書が常駐ではく週に、兼任しておられるということで、館長と見学させていただいたときに伺いましたが、現状で、門真市の小中学校の学校司書の配置の状況を参考までに教えていただきたいです。

事務局 学校司書の配置ですが、現在6名で、1人で2校、中学校は3校に入っておりまして、小学校が9校です。

委員 9校というのは全校ですか。

委員長 小学校は14校ありますので、14校中9校、中学校は6校ありまして、そのうちの3校です。

委員 ありがとうございます。

委員 その12校を6名の方が2校ずつ。

事務局 そうです。

委員 すると中学校と小学校を掛け持ちの方もいらっしゃる。

事務局 いらっしゃいます。

委員 今後充実の方向なのか、やはり財政上もなかなかどの市も厳しいとは思いますが、現状維持のような、何か長期的にといいですか、中期的でもけっこうですが、もし今後の方針等ございましたら教えてください。

事務局 学校司書に関しましては学校教育課が担当しておりまして、これにつきましては毎年予算をあげていただいて、今年もついたということですが、このところ確実にお返事はできません。

委員 ありがとうございます。

委員長 徐々に増えてきているのは事実だと思います。

委員 せめて小学校と中学校の掛け持ちぐらいは解消する方向でいけるといいですね。

委員 ありがとうございます。

委員長 ほかにどうでしょうか。

委員 この「読みメン講座」が気になります。先ほどもドーンセンターのイクメンの話だったんですが、ブックスタートでもお父さんが来られます。4カ月健診なので必ずお父さんと一緒に来られる方がいらっしゃって、だから、お父さんに対しても読み聞かせを一緒に見てもらいますが、そうすると赤ちゃんが笑うとお父さんがすごく喜びます。「ああ、すごい。見て、笑ってる。」と言って。そういうのを経験したことがない方が、女性よりも男性の方が多いと思いますので、イクメンが増えているので、そういったところの、赤ちゃんがいる家庭もしていただけるのかな、どういう内容で「読みメン講座」があるのかなというのが気になりました。

事務局 企画段階ですので決定ではありませんが、5回のうちいちばん最初の講演会は人数を増やした形で、「えほんのひろば」というのを開催していただいている方に、絵本の楽しさを、とにかく絵本に触れてもらうというまず初歩的なところで講座をお願いしております。2回目、3回目、4回目に関しましては徐々にスキルのようなものをつけるような形で、男性の、そういった講座をできる方をお願いしたりとか、手遊びを含めてみたり、まずはお子さんたちに絵本を読み聞かせることによってお子さんにも影響があるし、こういう楽しさもあるというようなことが伝わればなということで企画しております。第5回に関しましては、大阪府の方針としまして、読みメンということで、読み聞かせに少しでも関わっていただける男性が増えれば子どもたちが絵本や本に触れあうきっかけになるのではないかとという考え方もあるようですので、実際に講座を受けていただいた方々にお子さんに向けて読み聞かせをしてもらうということになってきます。あまり人数がいるとお子さんもう疲れてしまうということもあるので、第5回目も「えほんのひろば」ということで面展台をいくつか出しまして、絵本を見てもらいながらお近くのお子さんに読んで聞かせるような感じが一番良いのかなという形では企画しております。

委員 いま、詳細にご説明いただきましたが、昨年、この大阪府教育庁の企画でもあったと思いますが、読み聞かせというスキルのことだけではなくこの講座の目的というのはやはり父親の育児参加、家庭参加ですので、確かファザリングジャパン関西の方が、そのメンバーの方は読み聞かせもなさっていますが、父親の育児参加ということがどういう楽しさや意味があるのかということで、長年、全国組織ですがファザリングジャパンという当事者たちの団体ですよね、その関西のメンバーの方が関わっておられたように記憶しております。

事務局 今年度、国からのおそらく補助金のような形になるのですが、厳しくなりまして、交通費等も制限がありまして、講座の報償費の基準が低くなった関係もありまして、門真市と大阪市と河内長野市が今回開催の予定になっていますが、各市、講師をお願いするのに苦勞しているところでありまして、昨年度と同じ方は厳しいのかなという。

委員 参考までに申し上げただけです。

事務局 申し訳ありません。

委員 いえいえ。

委員 先ほどのご意見がすごく分かります。現場にいと、上手に読めるのが問題ではなく、決して上手に読めなくてもよくて、やはり、子どもとこうして読んであげるとすごく笑って、「僕もまた本を読んであげよう」という気持ちが大事だと思うので、養成講座など固いものになると、一生懸命読みます。「こう読

まなければいけない」といった絵本はないと思います。皆さんそれぞれ違う読み方があるので、あまり高度でなくてもいいのかなという感じはします。少し分かりにくいかもしれませんが。

委員 本はあくまでもきっかけですからね。

委員 はい、そうですね。上手に読まないといけないというのはないと思います。イクメンとかそういうのに関しては。その方の読み方で伝わればいいですし。養成講座というのが、講座という形がなんとなく違和感があります。

委員長 ほかにどうでしょうか。

ほかにないようでしたら、以上をもちまして本日の議案について終了し、平成28年度第1回図書館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。それでは、事務局にお返ししますので、あとはよろしくお願いします。

事務局 では最後に生涯学習部部長より閉会のご挨拶を申し上げます。

暑い中お集まりいただき、ありがとうございました。

先ほどからブックスタートの話が出ていて、最後にその話をしようかなと思っていましたが、22年の10月からブックスタートを開始したのですが、その間、初めて出だしたスマホがどんどんどんどん普及して、以前は病院の待合室などでお母さんが子どもに絵本を読み書かせる姿を見かけましたが最近は子どもを放ったらかしでゲームやメールに夢中になっている方がおられます。ブックスタートは初め、それから始まって、児童期、青年期にどのように読書につなげていくのかが課題になっています。そして下岡さんもおっしゃいましたように、担い手、ボランティアづくりも課題だと認識しております。

地域会議というのがありますが、そこにボランティアの方に協力していただいて出張して、地域の方にも読み聞かせをしてもらう、講座ではなくもう少し身近な人に読み聞かせを、徐々にですがこれから取り組んでいきたいなと思っております。

ボランティアの方も高齢の方も増えてきましたが、もう少し引き継ぎの期間、がんばっていただいて、お知恵などを拝借しながらがんばっていきたいと思います。

学校との連携につきましても、司書については、教育委員会としましては、やはり全校、一人ずつの希望をしておりますので、粘り強く要望をしてまいりたいと思います。

今後、図書館の役割は子どもの読書活動の推進だけではなく幅広いニーズにこたえるようなサービスが求められますが、これからもさまざまな立場の方々、委員がおられますので、またご意見、ご提言をいただきまして、より良い図書館づくりにご支援をいただきたいと思います。きょうはどうもありがとうございました。